

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 倉持 みち代

1 教育委員会

守谷市教育委員会では、茨城県学校教育指導方針や守谷市総合計画に基づき「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」と目標を掲げ、学校教育や社会教育等の充実を図るため、学校、家庭、地域との連携の深化を図りながら、すばらしい施策を展開している。

学校教育については、5つのプランを設定して、児童・生徒に「生きる力」の育成を図るために、他地域に先駆けた様々な取り組みや実践しており高く評価される。

各学校は、これらの目標の具現化を図り、目標達成のためにそれぞれの特色を生かした創意ある教育活動を実践している。このことは、教育委員会や指導室の揺るぎない指導力と支援の成果であると考ええる。

さらに、教育委員会訪問等を通して、学校現場との連携を密にしながら、現場を知り、現場の声に耳を傾けて、教育委員会と学校との信頼関係により、すばらしい運営をしており高く評価できる。

社会教育については、守谷市民が心豊かに幸せな生活を送ることができるよう、多様な学習の機会を提供したり、生涯学習の推進など、様々な方向を掲げて実践し市民のニーズに対応している。これも各事業のきめ細かな計画に基づいた実践の成果であると考ええる。

2 学校教育・指導室事業

・学習支援ティーチャーについて

児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために、小学校1・2年生や中学校1年生の4教科に対して学習支援ティーチャーを配置したことは、個々への児童生徒にきめ細かな指導の実践ができ、つまずきや課題等に対してその場で対応することができた。そのことで児童生徒が分かる喜びや学習する喜びが得られ、学力の向上に繋がったことはすばらしい成果であった。これを高く評価したい。

また、複数の教師で指導することで、児童生徒のメンタル面でも個々への理解がさらに深まり、充実した対応ができた。これにより児童生徒の心が安定してきて充実した学校生活を送れる大きな要因となった。

さらに、このことで、小Iプロブレムや中Iギャップの解消にも繋がり、「生きる力」の育成が図られていると感じた。さらに継続していただきたい。

将来的には、できれば学習支援ティーチャーを全学年に配置していただきたいが、（予算の関係もあるので）県の取り組みもあるので、今のところは県と市の両面から充実した教育活動を推進していただきたい。

なお、学習支援ティーチャーの活用については、指導室の充実した指導により、各学校でも工夫をしているが、さらに効果を高めるために（学校現場での経験不足の教師もいる

ので) できれば夏休みを利用して教育委員会主催の研修会等を実施していただければ有り難い。(1年間の勤務時間総時数の中で学校現場の状況と照らし合わせて日程等をやりくりして実施していただければと願う。そうすることで予算内で実施できると思う。)

- ・教育課程特例校の指定について

平成13年度からのALTの配置のおかげで、平成23年度からの小学校での新学習指導要領の全面実施以降も守谷市は文部科学省より教育課程特例校の指定を受けており、これまで通り小学校1年生から4年生までが英語活動、5、6年生が外国語活動を週1回実施している。児童生徒にとって外国語を学ぶことや外国の生活習慣や文化等に興味関心が高まり、コミュニケーション能力も高められている。この恵まれた教育環境やすばらしい取組みについて、広報紙等で市民にさらに啓発していただきたい。

ちなみに、指導室事業の「ALTと遊ぼう」についても国際理解教育の上で大きな成果が得られている。

- ・特別支援教育について

守谷市では、個に応じた指導の充実を図りながら、基礎基本の確実な定着が図られるように多くの取組みをしている。中でも著しいことは、全学校が特別支援教育の充実を図って推進していることである。

どの学校でも、校内支援体制が確立しており、障害のある児童生徒の個々への指導計画の基、充実した対応がなされていることは見逃せない。

普通学級にも在籍する配慮を要する児童生徒への対応もコーディネーターや担任等の充実した連携によりすばらしい教育を推進している。

この教育の推進に当たっては、市から配置されている「介助員先生」も関わっており大きな役割を担っている。

また、忘れてはならない重要なことは、「ノーマライゼーションの理念」に基づく教育を推進していることであり、障害がある子もない子も共に協力して仲良く学校生活を送っている。

この守谷市の取組みについては、全国から注目を浴びており、それらの実践や成果について、県内他地域や他県等から視察を受けており誇らしいことである。

学校だよりやホームページ等でも啓発しているが、広報紙等でも市民にさらに紹介していただきたい。

- ・ICT機器の活用について

分かる授業を目指し、学習の目標をより効果的に達成するために、授業の中でICT機器を活用することで、児童生徒が学ぶことに興味関心や意欲が増して効果的である。しかし、さらに、より深く分かる授業を展開するために、指導者の研修を継続して更なる充実を図っていくことを期待したい。

・心の教育について

心身共に健康な児童生徒を育成するために、多くの体験学習や道徳教育、人権教育等に力を入れて教育活動を推進している。特に道徳教育については、道徳の時間を中心に全教育活動を通してさらに進めてほしい。そのために校内研修や各種研修の充実を図りながら教員の資質向上を図ることが重要である。さらに、一人一人の人格等が尊重される人権教育も重要である。

また、核家族化、少子化等の社会現象に伴い、児童生徒の体験が少なくなっている中で、学校教育の中では、学校、家庭、地域等との連携を深めて、児童生徒に多くの体験学習を経験させ、人との関わり方や協力すること等を学ぶ機会をさらに増やしていただきたい。

心の教室相談員等については、各学校に毎月数回勤務しており、児童生徒や保護者からの相談を多く受けている。彼らとの信頼関係の深化を図るために（経費等の件もあるので難しいと思うが）できれば勤務日数を増やしていただければ有り難い。

3 給食センター

守谷市の教育目標に「たくましく生きぬく人づくり」を目指すと掲げており、そのたくましさを育成するためには、まず、好ましい人間関係の育成を基本として、児童生徒に正しい食のあり方をしっかり身に付けさせていく必要がある。

給食センターでは、児童生徒の心身の発達を考慮した献立を考え、守谷産の食材を活用しながら四季折々の季節感の味を伝える給食を提供している。

学校や家庭との連携も充実させていることもあり、児童生徒の食への喜びや関心が高められて、心身共に健康に成長し体力の向上も図られており、すばらしい。

さらに、給食訪問指導を通して、食事についての正しい理解と望ましい食習慣等について理解が深められた。

栄養教諭も各学校を訪問し、授業や保護者会等で栄養指導を重ねてきたことも効果的であった。

各学校のPTA活動では、給食センターを見学したり、各学年の校外学習の際は、保護者による給食試食会を実施したり意欲的に活動した。給食センターの指導もあり、給食についての理解が深められている。

なお、アレルギーを持つ児童生徒に対しては、個々へのメニューを早めに知らせる等できめ細かな対応がなされている。このことで児童生徒や保護者に安心感が得られている。今後も継続していただきたい。

給食費については、滞納家庭が増加しつつある中、守谷市では、教育委員会、学校、給食センターとの充実した連携がなされており、滞納家庭には手紙を発送したり、夏休み等を利用して教育委員会の方々が家庭訪問をするなど、きめ細かな対応をしている。学校としては、教育委員会から家庭訪問をしていただけることは、担任が訪問するよりは児童生徒にとって教育的であるので、今後も引き続き対応していただき、滞納額の減少に期待したい。

4 生涯学習事業

生涯学習事業については、市民の豊かな生活づくりを目指して、市民のニーズに応えながら多様な学習の機会や生涯学習の情報提供に力を注いでいる。

各事業の実施に当たっては、きめ細かな計画により充実した推進をしている。特に、自然観察会や公民館講座等では、豊かな守谷の自然やその良さをより深く理解していただく絶好のチャンスでもあり、人と人とのコミュニケーションの場としても意義があると思う。

さらに、児童生徒が心身共に健康で心豊かに成長するために、夏休みのプール開放や自然体験学習等で充実した取組みをしている。

市民のレクリエーション活動や体力づくりの場としては、学校体育施設開放等で充実した対応をしている。

学校、家庭、地域の連携を深めながら、地域住民や保護者にとって、生涯学習の場を提供していただくことはとても有り難いことである。家庭教育講座等の実施については共働きする家庭が多くなっているので、日時等を早期に知らせることで多くの方が参加できることを期待したい。学校としてもさらに協力をして多くの保護者に知らせていく必要がある。

放課後子どもプラン事業については、守谷市では、「児童クラブ」と「放課後子ども教室」を一体的に実施しており、このことは全国に例の少ない取組みである。このことは、生涯学習課、学校、家庭、地域が連携して実践していることであり高く評価したい。

また、この事業では多くのボランティアが必要なことから、広報紙や学校便り等でもこの事業について、引き続き広く啓発していく必要がある。

5 図書館事業

現在の社会情勢に対応しながら、市民のニーズに即して、市民一人当たり500円の資料費を確保し、資料収集や情報提供等の充実を図っていることはすばらしい。また、子どもから大人までを対象にした図書館運営に力を注ぎ、障害者への展示資料等を作成して宅配サービスを行い、利用者に提供するなどきめ細かなすばらしい対応をしている。

小中学校ともデータベース化が完了しデータベースを活用することにより、資料の検索機能が向上し、相互貸借も可能になり充実している。

図書館では、各学校への図書の貸し出しを積極的に実施したり、ブックトークを通して読書活動の推進を行ったり、学校教育の充実に大きく貢献している。益々連携して継続していただきたい。

< 総括 >

教育委員会の全体評価について

人口増加に伴い、多様な価値観や経験を持つ市民が多くなっている中で、市民のニーズに適切に対応しながら、教育委員会では、学校教育や社会教育等を積極的に推進している。

教育予算については、全体の約15%を掲げて、特に、児童生徒の安全対策を最優先課題として取り組むために、また、多くの教育機器等を備え充実した教育の推進を図るために適切に充当されている。

ミニパトカー利用による安全対策については、教師や保護者は当然ながら、地域の方々によるボランティア活動での利用が多くなり、地域ぐるみで安全安心な環境づくりがなされている。

このことは、教育委員会を中心に学校、家庭、地域の連携によるものであり、すばらしい取り組みである。益々活性化が図られるであろう。

尚、守谷市のスクールコミュニケーションの活用により、スピーディーで充実した連携がなされていることも著しいことである。各学校のメールマガジンの活用も保護者等に素早く情報等の提供ができています。

これらのことは、教育委員会や指導室の優れた取り組みによるものであり、守谷市の学校教育や社会教育等が益々発展していく大きな原動力ともなっている。

このような教育委員会のすばらしい取り組みやその成果については、市民に情報をどんどん発信していただきたい。特に、新しく守谷の市民になられた方々には、それらを充分に理解していただくとともに、守谷の歴史やよさを深く認識していただき、誇りをもって守谷で生活していただきたいと願っている。